

大豆特報

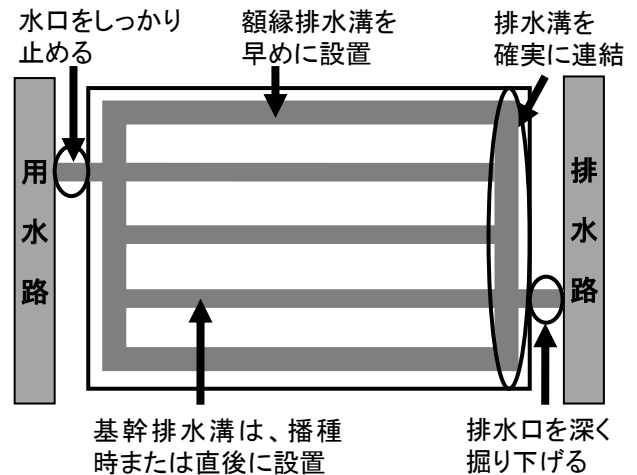
大豆栽培には、「排水対策」と「土づくり」の取組みが大変重要です。播種前にほ場の準備をしっかりと行いましょう。

また、耕起、播種などの一連の作業は、苗立ち本数の確保するため、土壌がよく乾いた状態で行い、出芽・苗立ちを促しましょう。

麦跡大豆は大麦の収穫後、直ちに播種ができるよう計画的に作業を進めましょう。

1 排水対策

- (1) 水口をしっかりと止め、水が入らないようにしましょう。また、排水口では水戸板をはずし、鍬等で深く掘り下げましょう。
- (2) 耕起前に、深さ 20cm 以上の額縁排水溝を必ず設置し、深く掘り下げた排水口と確実に連結しましょう。
- (3) 播種後も排水溝の点検・手直しを行うなど、排水対策を徹底しましょう。



2 土づくり

(1) 土壌改良資材

大豆は、土壌が酸性化すると根粒菌の着生・活性が低下しやすくなり、収量低下につながります。大豆栽培に適した pH6.0~6.5 を目標に、石灰質資材を耕起前に施用しましょう。

| 資材名 | 10 a 当たり施用量 |
|------|-------------|
| 苦土石灰 | 100kg |



(2) 有機物

地力の低下を防ぎ、収量・品質の向上を図るため、特に大豆の作付回数が多いほ場では、発酵ケイフンや堆肥を積極的に施用しましょう。

| 資材名 | 10 a 当たり施用量 |
|--------|-------------|
| 牛ふん堆肥 | 1t |
| 発酵ケイフン | 150kg |

3 種子消毒

毎年種子を更新するとともに、必ず種子消毒をしましょう。

| 薬剤名 | 使用法 | 使用量 | 対象害虫 | 備考 |
|-----------|-----|------------------|---------------------------------------|-----------------|
| クルーザーMAXX | 塗沫 | 80ml/ 種子 10kg | アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ、フタスジヒメハムシ、茎疫病、紫斑病等 | 薬剤は青色 処理後は風乾 |

4 基 肥

土壌条件や前作に応じ、適正な量を施用しましょう。

なお、青立ちの発生が懸念されるほ場や、土づくりに発酵ケイフンを散布したほ場では、下記の施肥基準の10～20%減肥してください。

| 肥料名 | 単 作 | 麦跡 |
|---------------------|--------------|--------------|
| BB 基肥084(10-18-24) | 25～30 kg/10a | 40～50 kg/10a |
| 化成肥料オール14(14-14-14) | 17～22 kg/10a | 30～35 kg/10a |

5 播 種

- (1) 品種、播種時期や粒径に応じた播種量を確認して、適正な栽植本数の確保に努めましょう。

| 栽培方法 | 品種 | 播種時期 | 栽植本数(本/10a) | 播種量(kg/10a) ^{注1,2)} |
|--------|---------|---------------|---------------|------------------------------|
| 畦 立 | えんれいのそら | 5月6半旬～6月上旬 | 14,000～16,000 | 5.5～6.3 kg |
| | | 6月中旬 | 16,000～18,000 | 6.3～7.0 kg |
| | シュウレイ | 5月6半旬～6月上旬 | 12,000～15,000 | 4.8～6.0 kg |
| | | 6月中旬 | 15,000～18,000 | 6.0～7.2 kg |
| オオツル | 6月上旬 | 10,000～12,000 | 4.0～4.8 kg | |
| | 6月中旬 | 12,000～14,000 | 4.8～5.6 kg | |

| 栽培方法 | 品種 | 播種時期 | 栽植本数(本/10a) | 播種量(kg/10a) ^{注1,2)} |
|--------|---------|---------------|---------------|------------------------------|
| 狭 畦 | えんれいのそら | 5月6半旬～6月上旬 | 19,000～21,000 | 7.4～8.2 kg |
| | | 6月中旬 | 21,000～23,000 | 8.2～9.0 kg |
| | シュウレイ | 5月6半旬～6月上旬 | 19,000～21,000 | 7.6～8.4 kg |
| | | 6月中旬 | 21,000～23,000 | 8.4～9.2 kg |
| オオツル | 6月上旬～中旬 | 19,000～23,000 | 7.6～9.2 kg | |

注1) 苗立率90%として計算

注2) 表は、大粒の百粒重の場合(えんれいのそら35.2g、シュウレイ36.1g、オオツル36.1g)

- (2) 耕起作業は作土深15cm以上を目標に行いましょう。

砕土率60%程度を確保するため、トラクタの作業速度、ロータリ回転数を調節しましょう。摩耗した耕うん爪は交換しましょう。

- (3) 播種深度は3cm程度を目安としましょう。浅いと水分不足に、深いと茎疫病により出芽苗立ちが悪くなります。

- (4) 播種は0.5m/秒程度の速度(3連の播種機で30aのほ場を70分程度)で、急がず、確実に種子を播き、欠株を防ぎましょう。

- (5) 播種時にできた溝は、排水溝に確実につなぎ、排水を促進しましょう。

【砕土率60%での大豆の生育状況】



出芽・苗立ちが安定し、揃いが良くなるとともに、除草効果も高くなる。

6 雑草防除

除草剤は、播種後の雑草発生前に均一に表面散布しましょう。

| 除草剤名 | 使用時期 | 10a当たり散布量 |
|------------|-------------------|------------------|
| エコトップP乳剤 | は種後出芽前 (雑草発生前) | 500mℓ(希釈水量:100ℓ) |
| エコトップP細粒剤F | | 4～6kg |

注1) 散布直後に多量の降雨が予想される場合は、降雨後に散布しましょう。

注2) 隣接ほ場や作物に飛散すると薬害が生じるので、注意して散布しましょう。